

広島大学大学院教育学研究科

共同研究プロジェクト
報告書

(第17巻)

平成31年3月

広島大学大学院教育学研究科

巻 頭 言

本報告書は、部局長裁量経費による平成30年度共同研究プロジェクトの成果報告書である。平成14年度の『リサーチ・オフィス共同研究プロジェクト報告書』第1巻が刊行されて以来、継続して刊行されてきた報告書の17巻目にあたる。

広島大学では平成12年度に教育学研究科・教育学部と学校教育研究科・学校教育学部が統合・再編され、新しい教育学研究科・教育学部が誕生した。これを機にリサーチ・オフィスを立ち上げ、研究科として取り組むべき研究課題を指定し、共同研究の推進を支援してきた。

新研究科・学部誕生の二年後には大学が法人化され、中期目標が設定された。共同研究プロジェクト制度はそれらを達成するための一つの策として有効に活用され、組織としての研究の推進に大きく貢献し、成果をあげてきた。また、教育をめぐる様々な状況が変化するに即応して研究課題を指定し対応してきたことも、本制度の重要な意義である。

このような経緯からもわかるように、本報告書は、本研究科が直面する問題意識とその時々の構成員の答えが投影された時代の鏡である。研究科の「紀要」が研究者個人またはグループの学術的な成果集であるならば、本「報告書」は研究科が果たそうとしている社会的責任を対外的に説明した年鑑として特徴づけられるだろう。過去17巻の目次を眺めてみても、その時代その時代で懸命に研究科の在り方を模索してきた先達の思いと息遣いが伝わってくる。

このようなミッションを帯びた共同研究プロジェクト制度だが、平成30年度のプロジェクト経費は、厳しい予算状況にもかかわらず、昨年度に比べて増額となった。本制度の変わらぬ意義をお認めいただき、限られた予算のなかで部局長裁量経費として本プロジェクト予算を確保していただいた研究科長をはじめ各位に改めて感謝申し上げます。

1. 研究課題の公募と研究カテゴリー

本年度も、年度初めに共同研究プロジェクトとして進められる研究課題が公募された。特に「平成30年度 教育学部・教育学研究科 中期目標・中期計画」「2 研究に関する目標」に基づいて、次の研究を優先することが明示された。

- (1) 異分野・複数ユニットの融合による独創的な研究
- (2) 教員及び学生の国際交流の効果や促進策に関する研究
- (3) 国内外のベンチマーク大学の取り組みに関する研究
- (4) その他、教育学研究科として国内外に提案できる研究

今年度の手続き上の特徴は、大きく2点ある。

第1に、新たに設置された研究推進委員会で採否が協議された点である。委員の評価点に基づいて、採否と充足率の原案が作成されたことは、本制度上、画期的である。初年度ゆえにその過程は困難を極めたが、評価の視点と方法を構成員参加の下で継続的に改善していくことは、研究科の在り方を協働で議論する場の創出につながると確信する。

第2に、大型研究プロジェクトへの発展をこれまで以上に意識した点である。申請者には、過去に同様のテーマで申請した研究課題については実績報告を求めるとともに、科研費の大型種目または他の大型外部資金等への応募を必須とした。本研究科を取り巻く社会的な課題を踏まえて教育・研究・社会貢献の在り方を模索し、その成果を学術的に意義づけて発信することは、これからのプロジェクト型研究の基本形となっていくのではないかと。

2. 採択された研究課題

本年度は11件の研究課題が採択された。ただし、途中で1件の辞退が認められたため、最終的には、下記10件の研究課題が実施され、報告書が提出された。

課題番号	研究代表者	研究課題名	カテゴリー
1	服巻 豊	身体動作を介したストレスマネジメント教育プログラムの効果研究－基礎と臨床を融合した心理学的検証－	(1)
2	深澤 清治	グローバル時代に求められる次世代教員養成プログラムの開発－日米協働による「体験型海外教育実地研究」の教育的効果の研究を通して－	(2)
3	岩田 昌太郎	Becoming a Teacher Educator in Japan:教師教育者の力量形成に資するワークショップ型研修の効果と self-study の観点から	(2)
4	深谷 達史	学習スキルと社会情動的スキルを高める介入法の開発と評価:児童生徒と学生を対象として	(4)
5	木村 博一	横断的・総合的な幼稚園教育教員養成プログラムの構築研究	(4)
6	難波 博孝	課題対応型エキスパート教員養成プログラムの構築研究－学部・大学院・附属の連携を通して－	(4)
7	竹下 俊治	ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化:教職科目・教育実習科目・教職実践演習の連動性と接続性をどう高めるか	(4)
8	木村 彰孝	教員の統合的な問題解決力の向上を意図した研修プログラムの開発	(4)
9	草原 和博	教育ビジョン研究センターの企画・運営戦略に関する研究(3)	(4)
10	小川 佳万	広島大学教育学部の AO 入試改善のための基礎的・探索的研究	(4)

※研究課題名は採択時のものである

3. 研究の実施と報告

採択決定後の実質 8 か月、短期間ではあるが、各研究代表者を中心に精力的に続けられた研究の成果の概要をまとめたものが本報告書である。なお、平成 26 年度以降、冊子体での配付を取り止め、広島大学機関リポジトリに登録して広く公開し、自由にダウンロードできるようにした。利用者が利用しやすいように、教育学研究科ホームページからもリポジトリに直接アクセスできるようにしている。

研究とは社会的存在である。研究は、それ自体として独立しては存在しない。社会との関わりにおいて、具体的には学生、すべての学習者、そして市民との関わりにおいて存在する。とりわけ教育学研究科の研究はそうであろう。私たち研究者は、自分（たち）が何のために何をしているかを常に自己省察した上で、研究はもちろん、教育や社会貢献に従事していく責任がある。その意味において、本報告書が広く読まれ、教育学研究科の問題意識と取組をご批評いただけることを願っている。

平成 31 年 3 月

広島大学大学院教育学研究科
研究部会長

草原 和博

目 次

1. 身体動作を介したストレスマネジメント教育プログラムの効果研究
ー基礎と臨床を融合した心理学的検証ー
..... 服巻 豊 (1)
2. グローバル時代に求められる次世代教員養成プログラムの開発
ー日米協働による「体験型海外教育実地研究」の教育的効果の研究を通してー
..... 深澤 清治 (11)
3. Becoming a Teacher Educator in Japan：教師教育者の力量形成に
資するワークショップ型研修の効果と self-study の観点から
..... 岩田昌太郎 (17)
4. 学習スキルと社会情動的スキルを高める介入法の開発と評価：
児童生徒と学生を対象として
..... 深谷 達史 (27)
5. 横断的・総合的な幼稚園教育教員養成プログラムの構築研究
..... 木村 博一 (33)
6. 課題対応型エキスパート教員養成プログラムの構築研究
ー学部・大学院・附属の連携を通してー
..... 難波 博孝 (41)
7. ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化：
教職科目・教育実習科目・教職実践演習の連動性と接続性をどう高めるか
..... 竹下 俊治 (47)
8. 教員の統合的な問題解決力の向上を意図した研修プログラムの開発
..... 木村 彰孝 (57)
9. 教育ビジョン研究センターの企画・運営戦略に関する研究 (3)
..... 草原 和博 (67)
10. 広島大学教育学部の AO・推薦入試に関する探索的研究
ー教員・学生への質問紙調査ー
..... 小川 佳万 (77)

発行者：広島大学大学院教育学研究科
(〒739-8524)

東広島市鏡山1丁目1-1

発行日：平成31年3月22日

印刷所：広島市西区商工センター7-5-33

株式会社 ニシキプリント

電話 (082) 277-6954